

# 認知症外来のご案内

初診は完全予約制です。まずは、お電話にてご相談ください。  
もの忘れが心配な方、軽度認知障害から重度の認知症まで幅広く対応しています。

予約の際は、看護師または精神保健福祉士が物忘れの症状やお困りごとを聴取します。  
続いて、身体・精神症状、生活・家族状況等を詳しく聞き取りしてから、予約のご案内をさせていただきます。

他の医療機関にて認知症の検査を受けた方、治療中の方、精神科・心療内科通院中の方は診療情報提供書（紹介状）が必要です。身体疾患をお持ちで、かかりつけの医療機関がある方も診療情報提供書の持参をお願いすることがあります。

初診時は患者さん、ご家族から丁寧に問診を取り、心理検査（物忘れの検査）、頭部MRI検査を受けていただき診断・治療を行っています。そのため、2時間から3時間程のお時間をいただいております。

認知症で行動・心理症状（興奮・幻覚・妄想・不安・抑うつなど）のある方は専門的な治療が必要となることが多く、当院では13名の精神科医が診療にあたっています。物忘れの進行を抑える治療・支援と、精神症状の治療、こころのケアが充実している病院として地域医療の貢献に務めていきたいと存じます。

## 千葉病院認知症疾患医療センター

電話相談窓口 047-496-2255

月・火・水・金・土 9:30～16:00

木曜、日曜、祝日、年末年始（12/30～1/3）、創立記念日（6/1）は休診のため電話はつながりません。ご了承ください。  
認知症外来初診予約、予約変更、キャンセルは、外来：047-466-2176（代）でも対応しております。

## 医療法人 同和会 千葉病院



### 【病院概要】

診療科  
精神科・神経科・神経内科・心療内科・歯科（要予約）  
院長  
小松 尚也  
外来診療時間  
平日9:00～16:00（月曜日のみ9:30～16:00）  
土曜日9:00～16:00（午後は予約制）  
休日  
木曜日・日曜日・祝祭日・6月1日（創立記念日）  
所在地  
〒274-0822 千葉県船橋市飯山満町2-508  
TEL:047-466-2176 FAX:047-466-7503  
ホームページ://www.dchp2176.com  
千葉県認知症疾患医療センター  
TEL:047-496-2255 FAX:047-496-2256

### 千葉病院 患者様の権利

- ①個人として、人格およびプライバシーが尊重されます。
- ②安全な環境で、可能な限りの良質な医療が提供されます。
- ③職員のいかなる行為に対しても説明を求め苦情を申し立てることができます。
- ④精神保健福祉法に則った医療および処遇が保障されます。
- ⑤職員から思想・信条・宗教および個人的関係は強制されません。
- ⑥個人情報保護されます。



千葉病院広報紙 特大号（第88号）発行者 医療法人同和会 千葉病院

# 地域連携室を開設

当院では従来、患者さんからの問い合わせや相談窓口、あるいは地域との医療連携に関する窓口として、専任の精神保健福祉士が配置された「地域生活支援室」がありました。その一方で、御家族からの相談に対応するための「家族相談室」や、外来、認知症疾患医療センターなどにおいても、さまざまな相談が持ち込まれておりました。

窓口を一本化することで、相談をする側（患者さんや御家族、地域の医療福祉機関など）からはわかりやすく、相談を受ける側においても手続きやフォローが円滑になることを目指し、『地域連携室』を設置することになりました。

診療部長のもと、専従の看護師2名、専任の精神保健福祉士1名で活動を行っております。



千葉病院の新しい窓口として、地域連携室が新たに発足しました。

目的は、新たな入院や退院の支援を行うことや、他病院、他施設との連携を行い、また病院の窓口を一本化し、多様なニーズにこたえることです。

従来の家族相談室、地域生活支援室の仕事を引き継ぎつつ、看護部、社会復帰科、事務の枠組みを超え、各専門知識を生かしながら総合的な対応ができることを目指します。

千葉病院のファーストタッチで関わる顔として、取り組めるように考えています。

（診療部長 横山）

地域連携室では、患者さんが安心して日常生活が送れるように地域の医療機関、障害福祉サービス事業所、介護サービス事業所・施設、保健所等と連携を図り、受診、入院から退院までの支援を行います。

また、相談窓口として初診予約から通院・入院・退院後の生活継続支援、家族相談まで様々な相談に対応します。療養生活、社会復帰などに関する悩み、困りごとなど個別性を重視した対応に努め、そして、スムーズかつ切れ目のない支援につなげていきたいと思っております。

地域のニーズに対応しながら、外来・病棟との連携に務めていきますので、よろしくお願いたします

（地域連携室主任 山本）

看護師・公認心理師の大岩です。

医療の経験を生かしながら、ご本人・ご家族との関わりを大切に、気軽に相談できる窓口にしたいと思っております。

よろしくお願致します

（地域連携室 大岩）

# 地域連携室について

現代、多様性への尊重と理解が進み、地域共生社会の実現に向けて「精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らすことができるような社会をつくる」という取り組みが行われています。その一方で精神疾患も多様化し、従来は統合失調症、気分障害（うつ病など）が多かったのですが、認知症、発達障害、依存症などが増加傾向となっています。さらに、一人親家族やヤングケアラー、ひきこもり（8050問題）や高齢世帯、就職氷河期世代などが孤立し、精神疾患が潜在し生活に困窮する人々などが複雑かつ従来の制度で支援が届きにくい課題もあります。

生活が不安定な状態や、孤立・孤独な状況は、教育や健康の格差の問題にも複合的に影響し、医療・福祉・介護にとどまらない多職種の連携による適切な支援を届けることがより一層重要です。

地域で暮らす人々の生活、療養を支えるには病院、クリニック、薬局、福祉・介護事業所、市役所、保健所、児童相談所、地域包括支援センター等、所属組織の異なる専門職間の連携が必要となります。このような各職種の連携のコーディネーターとして役割を果たしていきたいと考えています。そして、地域の人々の多様なニーズに対応し、適切な部署への架け橋になれるよう地域共生社会の実現に向けて活動していきたいと思っています。

近年、療養場所は「医療機関から暮らしの場へ」の移行が推奨され、地域包括ケアシステムの整備が進められています。そのため、外来・地域連携部門は広がりを見せています。千葉病院地域連携室は、患者さん、ご家族、支援者の方に対し療養指導、生活支援など継続的なフォローアップを行っています。そして、初診・入院から地域生活の場と医療をつなぎ、患者さんの療養生活を支える重要な役割を担う部署となっています。



精神科医療のかけ橋  
となって、支援の輪  
を広げていきます！

## 認知症の「行動・心理症状」(BPSD)の捉え方 番外編

千葉病院医師 笹平夏代

前回(ういんぐ2025年春号~秋号)前回まで、「認知症の「行動・心理症状」(BPSD)の捉え方」をテーマに、3回にわたってお伝えしました。

今回は番外編として、日々の診療の中で私自身が感じていることを中心に、お話ししたいと思います。第2回のコラムでは、認知症のBPSDで起こりやすい症状をお伝えしました。その中でも「不安」は、最も大きな要素を占めるのではないかと考えています。認知機能低下が徐々に生じてくる中、「自分が自分でなくなるような、寄り辺のない不安」が、まるで寄せては返す波の如く、じわじわと攻めよってくることに、恐怖を感じている当事者の方は少なくないのではないのでしょうか。何か言葉を発すると、周りからおかしな目で見られていると感じ、ますます不安になり、次第に閉じこもりがちな生活になっていく方が多いようです。

普段の外来の短い時間の中では、どうしてもご家族のお話を中心にお聞きすることが多いです。それでも何とかご本人のお話をお聞きできた時、「家族に迷惑をかけて申し訳ない。」「(自分は)いつまで生きているんだろうと思う。」等と悲観的な言動をされる方が見受けられます。こんな時は、自身が当事者の声を十分には聞いていなかったことに気づき、打ちひしがれます。

ある時、認知症と診断されていたBさんは、興奮、暴力が生じて入院となりました。入院治療により、これらの症状は消失したのですが、廊下をゆっくり徘徊する姿はすっかり活力がなくなってしまったようにも見えました。昔、漁師さんだったその方は、一度だけ「海に行きたいんだよね。」とポツリと呟いたことがありました。その横顔にはどこか諦めたような寂し気な表情が浮かんでいました。ほどなくしてBさんは施設入所されました。

認知症の当事者の方に接する時、その人らしさとは何か、まず考えます。治療によって、その人らしさを損なってはいけないと思っていますが、Bさんへの薬物療法は、もしかしたら、「海へ行きたい」というささやかな希望、エネルギーまでも奪ってしまったのではないかと懸念が残りました。

注意したいのは、本来、治療とは当事者の苦痛を取り除くことが目的のはずが、認知症の場合は、ご家族や周囲の人々の苦痛を取り除くことを優先する場合があります。当事者の方の意思が見失われることの無いよう意識したいです。

「老い」は誰にでも訪れる現象です。それは紛れもなく認知症のリスクファクターの一つです。同じ老いゆく運命の一員としても、当事者の方の「その人らしさ」を模索しながら、認知症を取り巻く様々な課題に関わっていきたくと思っています。



